

2-6-3 日本語

妊娠と薬

Drugs and Pregnancy

国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター 後藤 美賀子
神戸市立医療センター中央市民病院 産婦人科 池田 裕美枝

Mikako Goto, National Center for Child Health and Development
Yumie Ikeda, Kobe City Medical Center General Hospital

対象者 医師・後期研修医(卒後3年目以上)・初期研修医(卒後1-2年目)・学生

Target Doctor・Senior resident(3+years after graduation)・Resident(1-2 years after graduation)・Medical student

<目的> 妊婦に自信を持って薬剤を処方できる

女性を見たら妊娠を疑え、と教えられながらも、実際は妊婦に苦手意識を持っている内科医師は多いのではないのでしょうか。

あなたが外来で受け持っているその女性、もしかしたらある日妊娠したと相談されるかもしれません。あるいは別の日、産科医から肺炎疑いの妊婦を紹介されるかもしれません。

2014年、FDA 薬剤胎児危険度分類の撤廃が決定しました。これは薬剤の胎児に関する情報が患者に誤解なく伝わることの重要性を考慮してのことです。このレクチャーでは妊娠と薬の基本的な考え方、誤解を生まない説明の仕方、アップデートされた情報源の活用法などを紹介します。ご参加された先生方には是非「妊婦恐怖症」を克服し、妊婦のひいてはこれから産まれる赤ちゃんをも助けいただくことを願います。

<セミナー形式>

- ① アイスブレーキング
- ② 「外来で薬剤治療中の女性が妊娠したら？」症例提示2～3件＋クイズ
- ③ 「妊娠と薬、検査」レクチャー
- ④ 「妊娠中のこんな疾患、検査や治療はどう進める？」症例提示2～3件
- ⑤ 「妊娠と薬、検査」take home messages (レクチャー2)
- ⑥ アンケート記入

<学習目標>

- ・ 妊娠週数ごとの薬剤の与える胎児への影響について説明できる
- ・ 妊娠と薬に関する情報源を入手し活用できる
- ・ 妊婦が薬剤治療を拒む際、そのリスクを的確に説明出来る
- ・ 妊娠中の生化学的変化を理解し、採血データの異常を適切に判断できる
- ・ 妊娠中の産科的緊急疾患を列挙できる
- ・ 妊娠中の内科疾患を正確に診断し、治療できる
- ・ 妊娠中の内科疾患を治療し、産科医と連携して妊娠継続可能期間を議論できる

Many physicians are not familiar with treating pregnant women, although they are told to "treat all female patients as though they are pregnant."

The U.S. Food and Drug Administration (FDA) removed pregnancy letter risk categories – A, B, C, D and X, so that, both healthcare providers and patients have more flexibility, allowing for more accurate usage of drugs during pregnancy.

In this session, you can understand the basic rules of drugs and pregnancy, practice how to inform the patients about the drugs' risks on fetus, and learn how to get and use update information.